

# 自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（令和6年度第2回デジタル人材確保育成セミナー）

船橋市総務部人事課人材育成室 大島 祐一

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

## 1. はじめに

私が働く船橋市は、千葉県北西部に位置し、東京や羽田や成田空港へのアクセスの良さと、豊かな自然を併せもつ魅力あふれる街です。

中核市最大となる約65万人の人口を擁する全国有数の都市である一方で、小松菜やニンジンなどの都市農業や白はまぐりとも呼ばれるホンビノス貝や水揚げ量日本一のスズキなど漁業が盛んな街でもあります。また、アンデルセン公園をはじめ、多彩なレジャースポットやおいしい食べ物もたくさんありますので、機会がありましたら、是非とも遊びにきてください。

それでは、ここから話題をかえて、私がこの研修に参加したきっかけです。船橋市では、平成27年4月に、職員の能力を最大限に引き出すことなどを目的に「船橋市人材育成基本方針」を策定しました。職員がやりがいを持って、その能力を遺憾なく発揮できるよう人材育成の方策等を定めたものですが、策定から相当の期間が経過していること、また、国においては新たに「人材育成・確保基本方針策定指針」が示されたことから、現在、見直しを検討しているところです。庁内WGのメンバーとして見直しに着手していたところ、自治大学校よりタイミングよく研修の募集案内があり、応募したのがきっかけとなります。

私は、令和6年度第2回目となるデジタル人材確保・育成特別セミナーに、令和7年1月14日から1月17日まで参加させて

いただきました。

このたび、短い期間ではありますが、自治大卒業生として私の経験をお伝えする大変貴重な機会をいただくことができましたので、他自治体の研修生とともに過ごした日々を振り返ります。

## 2. デジタル人材確保・育成特別セミナー

この研修では、「自治体 DX 推進の意義」「DX時代に求められる人材育成」「国におけるデジタル化の取組」「地方自治体における今後の人材確保・育成」など普段の業務では出会うことがない、著名な講師による講義を受講することもできますし、毎日の座学後には、研修生が各班に分かれ、それぞれの自治体が抱えるデジタル人材の確保・育成についての課題や課題解決にあたっての方策等について、自由闊達な意見交換を行うことができるところに大きな特徴があります。また、最終日には各班で協議した解決策についての意見発表もありますので、ほどよい緊張感を持って臨むこともできますし、自身の成長や何よりも達成感を味わうことができます。私が参加した研修は、第2回目ということもあり、研修生計22名とあまり多くはありませんでした。デジタル部門の研修生がほとんどで、残り数名が人事部門でした。そうした状況でしたので、当初は、デジタル部門の研修生からの人事部門への不平不満といった意見が多く、人事部門の私としては、多少肩身の狭い思いもしましたが、意見交換をしていく中で、こちらの意見や立場を少しでも、理解してもらえたことは非常によかったのではないかと思います。どの講義も非常に興味深いもので

したが、印象に残ったのは、デジタル人材の確保・育成には、単に技術的なスキルを持つ人材を求めるのではなく、変革を推進できる「変革人材」を育成することが重要との話があり、私自身も技術的な知識を磨くだけでなく、周囲を巻き込み、変革を推進していくリーダーシップやコミュニケーションスキルを身に付ける必要があると痛感しました。DXは、決して避けて通ることができない社会構造の変化であり、職員全員が改革の担い手とならなければ前には進みません。職員一人ひとりがスキルアップを図り、組織内のノウハウを蓄積していく仕組みを長期にわたって構築していくことが組織として最も重要である。こういった考え方を今後の業務に取り入れていかなければならないと再認識することにもつながりました。

### 3. 洗心寮での生活について

すべての研修生は研修期間中、寄宿舎に入寮し共同生活をする事となります。

私が参加した研修は、第2回目の開催であったこともあり、研修生22名という少数での実施となったことから、全員が同じフロアで寮生活を送ることとなりました。同じフロアの利点として、研修生の顔をすぐに覚えることもできましたし、職場の悩み相談や業務における課題、また、プライベートなことまで気軽に話げできたことで、より濃密な関係を築くことができたなと思っています。また、施設内の食堂もお財布にやさしいお手頃な価格で利用できますし、何より立派な共同浴場もあるので、是非利用をおすすめします。ちなみに、私は、1度しか利用できませんでしたが・・・(残念)

研修2日目、3日目の夜には、モノレールに乗車して立川駅まで班員と飲みに行く機会もありました。お酒の勢いもあって、仕事以外の話、地元の話や趣味の話など、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

した。一番の思い出です。

### 4. おわりに

私が20代の頃、直属の先輩が自治大学校に入学・卒業したことをふと思い出しました。自治大に入学するにあたって、当時の課長が先輩にかなりの期待とプレッシャーをかけていたのを今でもはっきりと覚えています。自治大という存在は知っていたが、成績優秀な人が行くものと思っていたし、自分には敷居が高く、あまり縁がないものと思っていました。しかし、自身が人材育成を担当することとなり、どういう巡りあわせか研修に参加することとなりました。自分には全く関係ないと思っていた研修に参加して今感じることは、もっともっと若い時に自治大の研修に参加すればよかった、後悔の2文字です。

若い頃の私のように、もし自治大への入学を迷っている方がいるのであれば、悩むことなくプレッシャーも感じることなく挑戦してほしいと思います。研修によっては、何か月、1年といった長期の研修もありますが、全国の自治体の研修生との出会い、そして研修での様々な経験は、きっと自分自身の大きな糧となり、一生輝く宝となります。

繰り返しになりますが、私のように後悔しないためにも、自治大からの研修案内には目を通し、自身の成長や組織の課題解決等につながるような内容であったならば、積極的に手上げをしてほしいと思います。間違いなく自分の強みとなり、大きな成長につながることを約束します。

最後に、講師の皆様、自治大学校の事務局の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。